

## クローズアップ2015:ギリシャ、きょう総選挙 緊縮への不満、頂点 独と南北格差、鮮明に

毎日新聞 2015年01月25日 東京朝刊

【アテネ坂井隆之】欧州債務危機の震源地となったギリシャの総選挙が25日、投開票される。最新の世論調査では、政府が進めてきた緊縮政策の放棄を掲げる最大野党・急進左派連合が、サマラス首相（63）の与党・新民主主義党をリードしており、政権交代の可能性が濃厚になってきた。新たな火種を抱えつつある欧州の街を歩くと、欧州最強の経済大国ドイツと、拡大するばかりの経済の「南北格差」に不満を募らせるギリシャ国民のすれ違いの構図が浮かぶ。



「ギリシャはドイツの勤勉さを見習うべきだ。約束を守れないなら、ユーロ圏から出て行けばいい」。0度前後まで冷え込んだベルリンで20日、タクシー運転歴30年というモルトさん（60）が強い調子で話した。かつて東西を分断した「壁」周辺は再開発ラッシュに沸き、建設のクレーンがせわしげに動く。投資の増加で市の就業率は過去10年で2割も増加。モルトさんは「好況の今が一番客の機嫌もいい」と話す。

1990年の東西ドイツ統合後、深刻な不況に陥り「欧州の病人」とまで言われたドイツは、2000年代にシュレーダー政権が断行した年金や失業手当削減などの「痛みを伴う改革」で競争力を回復。欧州最大の経済大国に復活した。それだけに、ユーロ圏などから2450億ユーロ（約32兆円）もの支援を受けながら迷走するギリシャへの視線は厳しい。

ドイツ与党の重鎮・キリスト教民主同盟のフックス副議員団長（65）は「『宿題』（緊縮による財政再建）を忘れれば支援は打ち切られる。ユーロ圏を出るかどうかが、ギリシャが決めることだ」と言い切った。

ギリシャではリーマン・ショック後の09年10月、政府が長年財政統計を改ざんしていたことが発覚。これがきっかけで信用不安に陥り、債務危機に直面すると、ユーロ圏などからの巨額支援と引き換えに緊縮策の実行を約束した。できるだけ支援額を抑えたいドイツなどの要求で、ギリシャは15年までの5年間で国内総生産（GDP）の1.2%分にあたる財政改善を計画した。

ギリシャ欧州外交政策財団のパナジヨタレア研究員は「あまりに厳しい目標を押しつけたことに無理があった。12年のプラス成長を見込むなど（実際はマイナス6.4%）、景気回復の見通しも甘かった」と指摘する。

こうした緊縮策によって財政体質は一定の改善をみた。だが、社会保障費のカットや相次ぐ増税は景気の一段の悪化を招き、14年までの5年間でGDPが2割も減少するなど、国民生活へのしわ寄せは極めて深刻だった。新たな「欧州の病人」と決めつけられた不満は、限界まで達している。

「国辱は（投票翌日の）月曜に終わる。追従はもうおしまいだ」。22日、アテネ中心部のオモニア広場で開かれた急進左派連合の野外選挙集会。開襟シャツ姿のチプラス党首は、同じく「反緊縮」を掲げるスペインの新興極左政

党の党首と並び、数万人の支持者の歓声に応えた。

これに対し、サマラス首相は14年の成長率が7年ぶりにプラスに転じる見込みであることなどを実績に、「成長の基盤は整った」と政権継続を訴える。だが、国民の目は冷ややかだ。

23日夜の急進左派連会の集会に参加した元船員のアポストゥスさん(64)は、夫婦で月2000ユーロ(約26万4000円)の年金が1300ユーロに激減したといい、「政府が腐っているからドイツの言いなりになるんだ」とサマラス政権を辛辣(しんらつ)に批判。昨年アテネ市内の会社を解雇され求職中というツィリエグマさん(25)は、「富裕層の脱税には手をつけず、汚職まみれの政府は信用できない」と不信感をあらわにした。

生活に困窮したギリシャ国民は、ドイツなどから厳しい緊縮策を押しつけられた自国政府にいら立ち、緊縮継続に「ノー」を突きつける急進左派に引きつけられている。ただ、パナジヨタレア研究員は「ドイツなど貸手側も国民の目があり、緊縮緩和の交渉は容易ではない」と指摘。「急進左派が政権を獲得した場合、どこまで現実的な妥協を探れるか疑問だ」と選挙後の行方を懸念している。

#### ◇ユーロ圏、遠い財政統合 各国の経済力に差



「ギリシャへの第1次支援に失敗があった。ユーロ圏は迅速な対応を欠いていた」。国際通貨基金（IMF）は13年に公表した報告書でこう指摘し、ユーロ圏の小出しの対応が事態の悪化を招いたと異例の注文を付けた。

ユーロ圏が支援額を抑えようとし、厳しい緊縮策を押しつける背景には、「自分たちが稼いだお金をよその国に使われたくない」という各国の本音がある。本来、通貨統合を行えば、企業や銀行の国際間取引が一気に増える結果、どこかで危機が起きた場合の広がりもその分大きくなる。日本や米国のような単一国家なら政府や中央銀行がお金をつぎ込んで危機を封じ込めるが、寄り合い所帯のユーロ圏は1999年の設立にあたって税金を他国のために使う「財政の統合」を否定。代わりに財政赤字や債務残高、物価などの目標を加盟国に課し、「落ちこぼれ」を無くす方策を選んだ。これが緊縮策の原点だ。

だが、実際はギリシャとドイツの格差はユーロ発足後の00年代を通じて拡大の一途をたどった。ドイツ経済研究所のクリティコス研究部長は「もともと競争力がある製造業を持つドイツとギリシャでは基盤が全く違ううえ、その後の経済改革でも差がついた」と指摘する。

09年にはギリシャが統計を粉飾していたことが発覚し、債務危機が発生。「隣室で火が起きているのに消火器が無い」（英メディア）状況で、危機はスペインやポルトガルなど周辺国に燃え広がった。ユーロ圏は大慌てで総額7000億ユーロ(約9兆4000億円)の「欧州安定メカニズム(ESM)」などの設立に追い込まれた。

このときの教訓は、今も生かされているとは言えない。今月22日、欧州中央銀行(ECB)は経済停滞で物価が下がり続けるデフレの危機を防ぐため、加盟国の国債を買い取って大量のお金を金融市場に流し込む量的緩和政策の導入を決めた。

しかし、もし国債が焦げ付き、ECBに損失が発生すれば加盟国の負担となりかねないため、ドイツは強硬に反

対。結局、国債購入で発生した損失の8割以上は、各国の中銀が負担することに落ち着いた。

ドイツでは南欧支援に反発する政党「ドイツのための選択枝」が欧州議会や独地方選で議席を獲得するなど、一時の統合深化ムードは退潮している。同党のバズデルスキ事務局長は毎日新聞の取材に「経済力の違うギリシャが同じ通貨を持ったこと自体が失敗だった」と話した。

#### ◇急進左派連合が第1党の可能性

ギリシャの議会（定数300）は1院制。選挙は比例代表制で、第1党となった政党には50議席の「ボーナス議席」が与えられる。解散時勢力は第1党の中道右派・新民主主義党が127議席で、これに野党の急進左派連合（71議席）、連立与党の中道左派・全ギリシャ社会主義運動（28議席）が続いていた。

選挙の最大の争点は、欧州連合（EU）と国際通貨基金（IMF）による支援策の条件である歳出削減や行財政改革などの緊縮策の是非だ。厳しい緊縮策は国民生活を圧迫しているが、これを放棄して支援が中断されれば、国家財政が破綻する恐れもある。

2012年6月に就任した新民主主義党のサマラス首相は、公務員削減や増税、年金の減額などの緊縮策を履行。14年の国内総生産（GDP）が7年ぶりにプラス成長に転じる見通しになるなど成果が出始める一方、高い失業率などに国民の不満は高まった。これに対し、チプラス党首率いる急進左派連合は、「緊縮策の放棄」を掲げ、第1党となる可能性がある。

=====

#### ■ことば

#### ◇ユーロ圏

欧州単一通貨ユーロを導入している国々で形成する経済圏。ユーロは1999年1月に誕生。当初はドイツ、フランスなど11カ国でスタートしたが、現在は欧州連合（EU）加盟28カ国のうちギリシャやリトアニアなどを含む19カ国が導入している。加盟国共通の金融政策は欧州中央銀行（ECB）が担当する。

---

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.